

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年4月20日(2006.4.20)

【公表番号】特表2002-529491(P2002-529491A)

【公表日】平成14年9月10日(2002.9.10)

【出願番号】特願2000-582003(P2000-582003)

【国際特許分類】

A 61 K 8/00 (2006.01)

A 61 Q 11/00 (2006.01)

【F I】

A 61 K 7/20

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月22日(2006.2.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】歯ホワイトニング剤および熱的に反応性の粘度調整剤を含み、処置前温度で液体状態であり、また、前記処置前温度より高い処置温度において、より高粘度状態である歯科用組成物を使用する口腔環境の歯をホワイトニングする方法であって、

(a) 前記処置前温度の上記組成物を歯の表面に塗布するステップと、

(b) 前記組成物を処置温度まで加温させるステップと、

(c) 前記組成物を、ホワイトニングを遂行するのに十分な時間、歯の表面に保持させるステップと、

を含む方法。

【請求項2】歯ホワイトニング剤および熱的に反応性の粘度調整剤を含み、処置前温度で半固体状態であり、また、前記処置前温度より高い処置温度において、より高粘度状態である歯科用組成物を使用する口腔環境の歯をホワイトニングする方法であって、

(a) 前記処置前温度の上記組成物を歯の表面に塗布するステップと、

(b) 前記組成物を処置温度まで加温させるステップと、

(c) 前記組成物を、ホワイトニングを遂行するのに十分な時間、歯の表面に保持させるステップと、

を含む方法。

【請求項3】歯ホワイトニング剤および熱的に反応性の粘度調整剤を含み、処置前温度から処置温度への温度上昇に応じて粘度増大を受けることができる口腔環境に適した歯ホワイトニング組成物を使用する歯をホワイトニングする方法であって、

(a) 前記組成物を歯科用トレー内に分取するステップと、

(b) 前記歯科用トレーを使用者の口に入れるステップと、

(c) 前記組成物と少なくとも1つの歯の表面との間に接触を引き起こすことで、前記組成物の粘度増大を開始するステップと、

(d) 前記トレーを少なくとも1つの歯の表面をホワイトニングまたは増白するのに十分な時間、口内に保持するステップと、

(e) 前記歯科用トレーを前記口から取り出すステップと、

を含む方法。

【請求項4】処置前温度が室温である、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項5】処置温度が体温である、請求項1～3のいずれかに記載の方法。